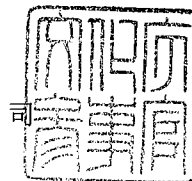


各都道府県教育委員会指導事務主管課
各指定都市教育委員会指導事務主管課
各都道府県私立学校事務主管課
附属学校を置く各国・公立大学法人附属学校事務主管課

御中

文化庁参事官（芸術文化担当）

梶山正司



（印影印刷）

令和2年度芸術系教科等担当教員等全国オンライン研修会の
開催について（依頼）

日頃から文化庁の事業に御協力いただきありがとうございます。

さて、令和2年度の芸術系教科等担当教員等研修会については、下記の通りオンラインで実施することとなりました。

については、本研修について周知いただくとともに、全国オンライン研修会（第1回及び第2回）の受講希望者について、（別紙1）「受講希望者の報告等について」に基づき、各主管課等でとりまとめ御報告ください。

記

1 目 的

芸術系教科等担当教員等に対し、学習指導要領の趣旨を踏まえた理論研修・実践研修を実施し、指導方法や評価方法等の工夫改善等につなげ、初等中等教育の芸術系教科等における指導の充実に資することを目的とします。

2 主 催 文化庁

3 共 催 全国芸術系大学コンソーシアム及び協力大学

4 開催期日及び受講希望者報告提出期限

	開催期日	受講希望者報告提出期限
第1回	令和2年12月3日（木）	令和2年11月4日（水）
第2回	令和3年2月22日（月）	令和3年1月12日（火）

5 日 程 (予定)

共通	9:10	9:40	10:40	11:00	12:00	13:00	16:00	16:10	16:30
	オリエンテーション/開講式	全体研修	休憩・準備	理論研修 (教科・科目別)	昼食	テーマ別 実践研修 (教科・科目別)	休憩・準備	振り返り	

6 カリキュラム内容

- (1) 全体研修では、芸術系教科等の意義、役割、新学習指導要領の趣旨を踏まえた今後の学習指導における課題や可能性など、教科・科目別の理論研修では、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の在り方や学習評価等についての講義を、文部科学省視学官及び文化庁教科調査官等が担当して行います。
- (2) テーマ別実践研修は、学習指導要領の趣旨やねらいの実現を目指す授業を展開するための実践手法を中心とした研修プログラムとします。具体的には、「A表現」及び「B鑑賞」の授業実践と結び付いた実技研修、教材研究の方法、実践事例を通した指導法の検討、指導に生きる学習評価の実際等とし、芸術系大学教員や広く活躍している芸術家等が担当として行います。
- (3) 各分科会（理論研修及びテーマ別実践研修）は次のとおり開催します。

分科会名	第1回（12月3日）		第2回（2月22日）	
	研修番号	予定定員	研修番号	予定定員
小学校音楽科	小音1	40名	小音3	40名
	小音2	40名	小音4	40名
小学校図画工作科	小図1	20名	小図5	20名
	小図2	20名	小図6	20名
	小図3	20名	小図7	20名
	小図4	20名	小図8	20名
中学校音楽科 高等学校芸術科(音楽)	中高音1	40名	中高音3	40名
	中高音2	40名	中高音4	40名
中学校美術科 高等学校芸術科(美術)	中高美1	10名	中高美7	40名
	中高美2	10名	中高美8	20名
	中高美3	10名	中高美9	20名
	中高美4	10名		
	中高美5	20名		
	中高美6	20名		
高等学校芸術科(工芸)	高工1	40名	高工2	40名
高等学校芸術科(書道)	高書1	40名	高書2	40名

※第1回（12月3日開催）分のテーマ別実践研修の研修テーマ等については、（別紙2）「全国オンライン研修会の研修テーマ等について」を参照してください。

※第2回（2月22日開催）分の研修テーマ等及び第1回、第2回各研修の概要（シラバス）については、決定次第、別途メールで送付します。

7 研修方法

- インターネットを利用したオンラインの受講となります。
- 受講には、カメラ、マイク機能のあるPC（ノート型、タブレット型等）またはスマートフォンが必要です。
- 研修は、ZoomなどのWEB会議アプリを使用して行う予定です。
- 研修場所は、各受講者の状況に応じて設定してください。

8 受講者

(1) 受講資格

- ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であって、芸術系教科等を担当している者又は予定している者（非常勤講師等を含む）
- ・都道府県、指定都市教育委員会の指導主事等
- ・オンライン研修の受講に必要な機器、環境（受講場所等）を準備できる者
- ・原則として、全ての研修プログラムを受講できる者

(2) 受講募集人数

- ・各都道府県、指定都市から第1回、第2回それぞれ4～6名程度
- ※ただし同一の分科会には2名を上限とします。（全分科会合計で6名程度まで）
- ※私立学校、国公立大学附属学校はそれぞれ別途受け付けます。
- ※各分科会の受入れ可能人数を超えた場合は、調整することがあります。

(3) 受講希望報告

各教育委員会等は（別紙1）「受講希望者の報告等について」に基づき、「受講希望者名簿」を作成し、

第1回（12月3日開催）分については、令和2年11月4日（水）までに、

第2回（2月22日開催）分については、令和3年1月12日（火）までに、

文化庁参事官（芸術文化担当）付学校芸術教育室宛てに、電子メールで報告してください。

9 受講者の決定

- (1) 第1回（12月3日開催）分について、文化庁は受講者を決定し、11月20日（金）を目途に、各教育委員会等に対して、通知します。
- (2) 受講希望者が多数の場合は、文化庁で調整の上、決定・連絡します。

10 その他

- (1) 本研修会は、目的に基づき芸術系教科等に関する理論及び実践研修を中心とするものであることを理解した上で受講してください。
- (2) 本研修終了後に、受講者アンケート等を行います。また、本研修会の受講後、本研修会の成果をどのように活用したか等について、報告を求めることがあります。
- (3) 研修会受講に係る服務等については、各教育委員会、所属校等の判断によるものとします。
- (4) 「受講希望者名簿」のエクセルファイルはメールにて送付します。

【添付文書】

- ・（別紙1）受講希望者の報告等について
- ・（別紙2）全国オンライン研修会の研修テーマ等について

【本件担当】

文化庁参事官（芸術文化担当）付

学校芸術教育室（中山、鈴木）

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

電話：03-5253-4111（内線3163）

FAX：03-6734-3814

E-mail:artedu@mext.go.jp

受講希望者の報告等について

以下の要領で「受講希望者名簿」を作成し、文化庁参事官（芸術文化担当）付学校芸術教育室教育課程係（artedu@mext.go.jp）宛て電子メールにて送信してください。

- 1 各都道府県及び指定都市教育委員会
管内の受講希望者（私立学校、国公立大学法人附属学校は除く）を、「受講希望者名簿」に取りまとめて報告
- 2 各私立学校事務主管課
受講希望があった場合は、「受講希望者名簿」に取りまとめて報告
- 3 各国公立大学法人附属学校事務主管課
受講希望があった場合は、「受講希望者名簿」に取りまとめて報告

※通知文及び「受講希望者名簿」等の電子データはメールにて送信しています。

届いていない場合は、学校芸術教育室教育課程係（artedu@mext.go.jp）へメールでご連絡ください。

【「受講希望者名簿」作成上の留意事項】

- 1 「受講希望者名簿」（Microsoft Excelファイル）に必要事項を記入の上、
第1回（令和2年12月3日開催）分については、令和2年11月4日（水）までに、
第2回（令和3年2月22日開催）分については、令和3年1月12日（火）までに、
学校芸術教育室教育課程係（artedu@mext.go.jp）へ提出してください。
- 2 ファイル名は、
都道府県・指定都市番号＋都道府県・指定都市名等＋第〇回受講希望者名簿
としてください。

※例： 13東京都第1回受講希望者名簿.xlsx、
13東京都私立第2回受講希望者名簿.xlsx
13東京都〇〇大学附属〇〇第1回受講希望者名簿.xlsx

〔記入上の注意事項（エクセルファイルの「記入例」参照）

- (1) 「学校種」はプルダウンから選択してください。
- (2) 「研修番号(開催日)」は該当する番号をプルダウンで選んでください。
(研修番号が自動入力されます)
- (3) 行が足りない場合は必要に応じて挿入してください。
その他の書式は変更しないでください。
- (4) 担当者欄は、今後本事業の各県等の窓口となる者を記入してください。

(4) 都道府県・指定都市の番号は以下の番号を入力してください。

1 北海道	2 青森県	3 岩手県	4 宮城県	5 秋田県
6 山形県	7 福島県	8 茨城県	9 栃木県	10 群馬県
11 埼玉県	12 千葉県	13 東京都	14 神奈川県	15 新潟県
16 富山県	17 石川県	18 福井県	19 山梨県	20 長野県
21 岐阜県	22 静岡県	23 愛知県	24 三重県	25 滋賀県
26 京都府	27 大阪府	28 兵庫県	29 奈良県	30 和歌山県
31 鳥取県	32 島根県	33 岡山県	34 広島県	35 山口県
36 徳島県	37 香川県	38 愛媛県	39 高知県	40 福岡県
41 佐賀県	42 長崎県	43 熊本県	44 大分県	45 宮崎県
46 鹿児島県	47 沖縄県	48 札幌市	49 仙台市	50 さいたま市
51 千葉市	52 川崎市	53 横浜市	54 相模原市	55 新潟市
56 静岡市	57 浜松市	58 名古屋市	59 京都市	60 大阪市
61 堺市	62 神戸市	63 岡山市	64 広島市	65 北九州市
66 福岡市	67 熊本市			

[受講希望者名簿送信先]

文化庁参事官（芸術文化担当）付学校芸術教育室教育課程係

E-mail : artedu@mext.go.jp

[担当] 文化庁参事官(芸術文化担当)付 学校芸術教育室教育課程係

電話 : 03-5253-4111(内線3163)

全国オンライン研修会について

【第1回】(令和2年12月3日開催分)

分科会	研修番号	研修テーマ等	講師等	担当大学(予定定員)
小学校音楽科	小音1	学習指導要領を踏まえた授業づくりを考える デジタルデバイスによる音楽づくり(基礎～)	福原之織：エリザベト音楽大学教授 壬生千恵子：エリザベト音楽大学教授 川上 統：エリザベト音楽大学教授	エリザベト音楽大学(40)
	小音2	音楽づくりの実践と授業研究を通して音楽づくりの新たな指導法、授業展開の視点や方法を探究する	石川則子：日本女子大学非常勤講師 市川 恵：早稲田大学教育・総合科学 学院講師	東京藝術大学 (40)
小学校 図画工作科	小図1	美術の専門実技講習を基にした小学校図画工作科における授業改善 —グラフィックデザインの思考を通して学ぶ創造的に発想や構想することとは—	石賀直之：東京造形大学教授 小林貴史：東京造形大学教授 山田 猛：東京造形大学教授 海士智也：東京造形大学准教授	東京造形大学 (20)
	小図2	美術の専門実技講習を基にした小学校図画工作科における授業改善 —タブレットを活用したアニメーション製作を通して学ぶ創造的に表すこととは—	石賀直之：東京造形大学教授 小林貴史：東京造形大学教授 山田 猛：東京造形大学教授 和田敏克：東京造形大学准教授	東京造形大学 (20)
	小図3	美術の専門実技講習を基にした小学校図画工作科における授業改善 —持続可能な社会づくりの視点から学ぶ創造的に発想や構想することとは—	石賀直之：東京造形大学教授 小林貴史：東京造形大学教授 山田 猛：東京造形大学教授 岩瀬大地：東京造形大学准教授	東京造形大学 (20)
	小図4	デザインから考える図画工作	寺井剛敏：金沢美術工芸大学教授 ・進行 桑村佐和子：金沢美術工芸大学教授	金沢美術工芸大学 (20)
中学校音楽科、 高等学校芸術科 (音楽)	中高音1	「我が国の伝統音楽」の鑑賞に関する教材や指導法、授業展開の視点と方法を探究する	藤原道山：尺八演奏家 徳島文理大学客員教授	徳島文理大学、 東京藝術大学 (40)
	中高音2	創作の実践と授業研究を通して創作の授業の新たな視点や方法を探究する	アベタカヒロ：作曲家 佐野 靖：東京藝術大学音楽学部教授	東京藝術大学 (40)

分科会	研修番号	研修テーマ等	講師	担当大学 (予定定員)
中学校美術科、 高等学校芸術科 (美術)	中高美 1	陰刻レリーフの研究： シンリソングワックス印の制作を通して 授業への応用について	尾澤 勇：秋田公立美術大学 美術教育センター教授	秋田公立美術大学 (10)
	中高美 2	彫刻素材研究： 滑石の彫刻 授業への応用について	皆川嘉博：秋田公立美術大学 アーツ&ルーツ専攻准教授	秋田公立美術大学 (10)
	中高美 3	伝統工芸の漆器（菓子皿）製作体験を通し、作品制作 に対する発想や構想に関する資質・能力を醸成し、完 成後に使用することで、生活の中の美を感受する視点 を養う。	熊谷 晃：秋田公立美術大学 ものづくりデザイン専攻准教授	秋田公立美術大学 (10)
	中高美 4	マテリアル・ラボ： つくり方をつくることを通した発想・構想の方法	柚木恵介：秋田公立美術大学 ものづくりデザイン専攻准教授	秋田公立美術大学 (10)
	中高美 5	ポップカルチャー作品の鑑賞活動における可能性	三澤一実：武蔵野美術大学 教職課程研究室教授 春原史寛：武蔵野美術大学 芸術文化学科准教授	武蔵野美術大学 (20)
	中高美 6	意味を伝えるデザイン	白尾隆太郎：武蔵野美術大学 通信教育課程課程長・教授 大坪圭輔：武蔵野美術大学 教職課程研究室教授	武蔵野美術大学 (20)
高等学校芸術科 (工芸)	高工 1	日本の伝統と文化『友禅染』 ～糸目糊を用いた技法を学ぶ～	上原利丸：東京藝術大学 美術学部工芸科染織研究室教授 橋本圭也：東京藝術大学 美術学部工芸科染織研究室准教授 渡邊五大：東京藝術大学 美術学部美術教育研究室准教授	東京藝術大学 (40)
	高書 1	新しい教育課程と主体的・対話的で深い学びの実現に 向けた芸術科書道の授業	加藤泰弘：東京学芸大学 中里将大：福岡県立三井高等学校 八谷勝生：山口県立宇部西高等学校	東京学芸大学 (40)